

農試第243-2号
平成25年3月27日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長
(公印省略)

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先	福井県農業試験場	病害虫防除室
Tel	0776-54-9315	
FAX	0776-54-6403	
E-mail	byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp	

平成25年農作物病害虫発生予察予報第2号

4～5月の気象概況

4月の気温・降水量は平年並み。5月の気温は高く、降水量は並みと予想されています。

[水稻関係]

病害虫名 ばか苗病

1. 予報内容

発生時期：発病最盛期は5月上旬

被害程度：少発

発 生 量：育苗期の発生量は平年より少なく、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意点

発生予察予報第1号のとおりである。

病害虫名 苗いもち

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発 生 量：育苗期の発生量は平年より少なく、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりである。

病害虫名 各種苗立枯病（糸状菌）

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発

発 生 量：平年より少なく、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりであるが、特に育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理する。多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

病害虫名 褐条病、もみ枯細菌病、苗立枯細菌病

1. 予報内容

発生時期：初発は4月中旬

発生程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み。

2. 防除対策および防除上の注意すべき事項

発生予察予報第1号のとおりであるが、特に育苗ハウスの温湿度管理（夜間5℃以下、昼間25℃以上にならないように管理する。多湿を避ける）に留意し健苗育成に努める。

【大麦関係】

病害虫名 赤かび病

1. 予報内容

発生時期：初発は5月上旬

被害程度：少発、局中発

発生量：平年、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意点

(1) 1回目の防除適期は開花始め～開花盛期である。そのため、開花始め～開花盛期に相当する出穂5日後頃に1回目の薬剤防除を行う。また、1回目の防除の7～10日後に2回目の薬剤防除を行う。

(2) 出穂期以降に気温が高く、降雨が続くと多発するので、防除適期を逃さないようにする。そのために、圃場をこまめに巡回し大麦の出穂状況を日頃から確認しておく。

病害虫名 雲形病

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年より少なく、前年並み

2. 防除対策および防除上の注意点

(1) 本病は進展速度が遅いので、局部発生であれば防除の必要はない。

(2) 発生の多い圃場では止葉展開期～出穂期に薬剤を散布する。

(3) 種子伝染するので発病圃場からは採種しない。

病害虫名 株腐病

1. 予報内容

被害程度：少発、局中発

発生量：平年並み、前年より多い

2. 防除対策及び防除上の注意点

(1) 麦の生育量が多い圃場では、発生が多くなるので注意する。

(2) 発生を認めたら、発生初期に薬剤を散布する。

[果樹関係]

果樹名	病害虫名	予 報 内 容			防 除 対 策
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナ シ	黒星病	初発： 5月上旬	少発	平年：並み 前年：並み	1) 脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2) 同一薬剤の連用は避ける。
	黒斑病	初発： 5月上旬	少発	平年：少 前年：並み	1) 脱苞期～交配直後にかけて重点防除する。 2) 同一薬剤の連用は避ける。
	赤星病	初発： 4月下旬	少発	平年：少 前年：並み	1) 中間寄主のビャクシ類はできるだけ広範囲に伐採する。 2) 防除は開花直前から5月上旬にかけて行う。
ウ メ	黒星病	果実初発 5月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多い 前年：並み	1) 防除体系に基づき、展葉期以降予防防除を行う。 2) 多発園では4月中旬以降散布間隔を10日以内にする。
	かいよう病	果実初発 4月中旬	少発 (局中発)	平年：やや多い 前年：並	1) 果実直径10～15mmの時期に予防防除を行う。 2) 果実肥大期に強風雨や降雹があった場合は、2日以内に抗生物質剤で防除を行う。 3) 耕種的防除として防風対策を必ず実施する。
	アブラムシ類	加害初期： 4月中旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 展葉初期～生育期に防除する。
	ウメシロカイガラムシ(第1世代幼虫)	幼虫発生初期： 4月6 半旬	少発 (局中発)	平年：並み 前年：並み	1) 4月20日頃から越冬雌成虫の産卵および幼虫ふ化時期を観察し、適期に防除する。 2) 越冬雌成虫の着生が多い樹では、ふ化初期とその7日後の2回防除する。